

尺度得点が高いほど、現在の学校生活に適応的であり、仲間との連帯志向が強いことを意味する。

表1-5 学校生活に対する意識尺度項目

<仲間志向-孤立志向尺度>

1. 友だちと一緒にいると楽しい
2. 友だちとできるだけ交わるようにしている
3. 親しい友だちがいる
4. 勉強以外のことを友だちとよく話す
- *5. 友だちにはあまり大事なことは話さない
- *6. 友だちとのつきあいがうっとうしいと思うときがある
- *7. 仲のよい友人グループを持っていない
- *8. 友だちとのつきあいよりも、自分のことを大切にする
- *9. 友だちと一緒にいるより1人でいる方が気が楽だ
- *10. 友だちと一緒にになって勉強や遊びのグループをつくるのはいやだ
- *11. 友だちから相手にされなくてもかまわない

<学校適応-脱学校尺度>

1. 今の学校生活に満足している
2. 学校での勉強は、将来の生活や職業に役立つと思う
3. この学校に対して親しみを感じる
4. 先生には安心して何でも相談できる
5. 学校で受けている授業はよく理解できる
6. 学校の規則はよく守る方だ
7. 学校の先生に対して親しみを感じる
8. この学校の生徒であることを誇りに思う
- *9. 学校に行きたくないと思うことがある
- *10. 学校に対して反発を感じる
- *11. 学校の授業は時間のむだだと思うことがある
- *12. 授業中でも、おもしろくなければ別のことをしていてもかまわないと思う
- *13. 授業を受けているのが苦痛である
- *14. 学校を休みたいという気持ちになる
- *15. 私にとって学校は居心地が悪い

*逆転項目

6. 教師関係尺度

この尺度は、教師との関係について測定する項目である。学校生活適応感尺度（高瀬他，1986）のうち、教師関係尺度を使用した。この尺度は6項目から構成されている。『次のことがらについて、あなた自身にどのくらいあてはまりますか？「5. あてはまる」から

「1. あてはまらない」までの中から、もっともあてはまるもの一つを選んで、数字に○をつけて下さい。』と質問文を用意し、それぞれの項目について5件法で回答を求めるものである。質問項目を表1-6に示す。この尺度得点が高いほど、教師と良い関係をもっていると感じていることを意味する。

表1-6 教師関係尺度項目

-
1. 私には、この学校で何でも相談できる先生がいる
 2. 私は、この学校の先生と話をする機会を持つようとしている
 3. 私には、まるで友だちのように親しみを感じる先生が、この学校にいる
 4. 私は、この学校の先生と気軽に話せる
 5. 私は、この学校の先生を信頼している
 6. 私は、先生によく質問する
-

7. 友人への同調尺度

外面的な友人への同調行動をとる程度を測定する尺度であり、交友関係に関する項目(上野他, 1994)のうち、友人への同調に関する項目(4項目)を使用した。『次のことについて、あなた自身にどのくらいあてはまりますか? 「5. あてはまる」から「1. あてはまらない」までの中から、もっともあてはまるもの一つを選んで、数字に○をつけて下さい。』と質問文を用意し、それぞれの項目について5件法で回答を求めるものである。質問項目を表1-7に示す。この尺度得点が高いほど、友人への同調性が強いことを意味している。

表1-7 友人への同調尺度項目

-
1. できるだけ仲間と同じように行動したい
 2. 何をするにも皆と一緒にだと安心する
 3. 仲間はずれにされるのは絶対にイヤだ
 4. 流行遅れになるのはイヤだ
-

8. 親の養育態度と親子関係尺度

子どもに対する親の養育態度や、親子関係について測定する項目である。自分の家庭を良いと感じ、家族から愛されていると感じる程度を測定する親への愛情尺度(福富他, 1998)と、子どもに対する親の養育態度を測定する養育態度尺度(東京都生活文化局, 1998)の項目を使用した。『あなたとご両親との関係についてお聞きします。以下の文章について「1. はい」「2. どちらでもない」「3. いいえ」のうち、あてはまるものに○をつけて下さい』と質問文を提示し、回答を求める者である。18項目から構成されている。項目内容を表1-8に示す。

表 1 - 8 親の養育態度と親子関係尺度項目

1. 父は私に対して暖かい
2. 父は私の気持ちをわかろうとしている
3. 父は頼りがいがある
4. 将来、父のような生き方をしたい
5. 父を尊敬している
6. 母は私に対して暖かい
7. 母は私の気持ちをわかろうとしている
8. 母は頼りがいがある
9. 将来、母のような生き方をしたい
10. 母を尊敬している
11. 私の両親は仲がよい
12. 父から私は十分愛されていると思う
13. 母から私は十分愛されていると思う
14. 将来、両親のような家庭を築きたい
15. 父は何かにつけて私の行動に口をはさむ
16. 父は何かにつけて自分の考えを押しつけようとする
17. 父は何かにつけて私の行動に口をはさむ
18. 父は何かにつけて自分の考えを押しつけようとする

9. 生活感情の構造尺度

青年期の生活感情の全体的な構造を明らかにするために作成した尺度である（内田, 1990）他者との関係で感じる領域である「対人関係の領域」、自己に関わる感情の領域である「自己認知の領域」、日常の生活の中での現実的な目標に関わる感情である「現実目標の領域」、将来を展望することにより生じる感情の領域である「理想目標の領域」という4領域に分類されている。『あなたは、日ごろ自分自身についてどのように考えていますか？以下のそれぞれの文章について「5. あてはまる」から「1. あてはまらない」の5つの中から、自分にもっともあてはまるもの一つを選んで、数字に○をつけて下さい』と質問文を提示し、回答を求めるものである。本調査では、生活感情の構造尺度農地、「自己認知の領域」「現実目標の領域」「理想目標の領域」の3尺度を使用する。それぞれ8項目から構成されている。項目内容を表 1 - 9 に示す。

表 1 - 9 生活感情の構造尺度項目内容

<自己認知の領域>

1. 私は自分の良さがわかっていると感じる
2. 今の自分に誇りを持っていると感じる
3. 私は有能で可能性に富む人間であると感じる
4. 私には人より優れた何かがあると感じる
- *5. 自分の性格や能力についてよく悩んでいると感じる

- *6. ちょっとしたミスで気がめいってしまうように感じる
- *7. 私は今の自分が嫌いであると感じる
- *8. 自分がとても情けなくなることがよくある

<現実目標の領域>

- 1. 日々の生活の中に熱中できる（没頭できる・打ち込める）ことがあると感じる
- 2. 日々の生活の中で何かを成し遂げる喜びを感じている
- 3. 日ごろはりのある生活を送っていると感じる
- 4. 私は日々の生活の中で生きる喜びや実感を味わっていると感じる
- *5. 私にはやって楽しい事とか興味のもてる事はほとんどないように感じる
- *6. 日ごろ何をすべきか自分にもよくわからないような気がしている
- *7. 毎日していることに大した意味を見いだせないように感じている
- *日ごろ何もする気がしないことがよくあると感じる

<理想目標の領域>

- 1. 私は自分に適したまたは理想とする職業に就くことができると感じる
- 2. 私は自分の将来に希望を持っていると感じる
- 3. 私は生きていく上での目標があると感じる
- 4. 私は自分の生き方は自分で決められると感じる
- *5. 私は自分の生き方に確信を持っていないように感じる
- *6. 一生懸命努力しても自分の将来はたいしたことはないように感じる
- *7. 将来社会に出てもうまくやっていけそうもないように感じる
- *8. 私は自分の将来の生き方や人生について真剣に考えていないように感じる

*逆転項目

10. 自己存在感のなさ尺度

自分自身の存在感のなさを感じている程度を測定する尺度である。自己の存在感のなさ尺度(福富他, 1998)を使用した。『あなたは、日ごろ自分自身についてどのように考えていますか?以下のそれぞれの文章について「5. あてはまる」から「1. あてはまらない」の5つの中から、自分にもっともあてはまるもの一つを選んで、数字に○をつけて下さい』と質問文を提示し、回答を求めるものである。本尺度は6項目から構成されている。項目内容を表1-10に示す。この尺度得点が高いほど、自分自身の存在感のなさを感じていることを意味している。

表1-10 自己存在感のなさ尺度項目

-
- 1. 私の代わりは世の中にたくさんいる
 - *2. 私はかけがえのない存在だ
 - 3. 私がいなくても、だれも困らない
 - 4. 私がどうなっても、悲しむ人はいない
 - 5. 私のことを心から心配してくれる人はいない
 - 6. だれも私を相手にしてくれないような気がする
-

*逆転項目

7. 問題行動の実態と意識についての項目

「飲酒」「無免許運転」「バイクや自転車などの窃盗」「金品の窃盗」「恐喝」「傷害」「薬物使用」「軽い援助交際（お茶やデート、カラオケなど）」「重い援助交際（性的な行為を含む）」「性的行為の強制」のそれぞれの行動について、それぞれの行動の経験の有無、行動に対する価値観、友人がやっていたら止めるか否か、友人からの反応の予測、行動したきっかけなどについて、尋ねる項目である。『〇〇という行動について、普段のあなたの行動や考え方にあてはまるものを一つ選んで○をつけて下さい』と質問文を用意し、回答を求めるものである。質問項目を表1-11に示す。

表1-11 問題行動の実態と意識についての質問項目

-
- 「〇〇という行動」をしたことは…
 1. 全くない
 2. 1～2度ある
 3. 時々ある
 4. よくある
 - 「〇〇という行動」するのはいけないことだと思う
 1. 全く思わない
 2. あまり思わない
 3. どちらでもない
 4. ややそう思う
 5. とてもそう思う
 - 身近な友だちが「〇〇という行動」をしていたら友だちを止めると思う
 1. とめない
 2. あまりとめない
 3. どちらでもない
 4. ややそう思う
 5. とてもそう思う
 - 「〇〇という行動」をしたら、身近な仲間・グループからは…
 1. 別に何も言われなと思う
 2. 嫌われると思う
 3. やめるように注意されると思う
 4. その他
 - 相手の意志に関係なく、「〇〇という行動」をしようと誘われて断ると、身近な仲間・グループに…
 1. 居づらいと思う
 2. 仲間から外される
 3. 特に関係ない
 4. その他 ()
 - あなたが「〇〇という行動」をしたきっかけについて、あてはまるもの全てに○をつけて下さい。
 1. やらない
 2. 友だちに誘われた
 3. イライラしていたから
 4. 自分がやりたかったから
 5. まわりのみんな（友だち）がやっていたから
 6. 何となく
 7. 好奇心から
 8. 淋しいから
 9. その他 ()
-

12. 問題行動の被害者となった経験についての項目

問題行動の被害者となった経験があるかについて尋ねる項目である。『以下の項目についてあなた自身が被害を受けたことがあるもの全てに○をつけて下さい。』と質問文を用意し、回答を求めるものである。質問項目について表1-12に示す。

表1-12 問題行動の被害者となった経験について

-
1. 自転車やバイクを盗まれた
 2. お金や物を盗まれた
 3. 性的行為を強要された
 4. 理由もなく他人から暴力をふるわれた
 5. 援助交際をもちかけられた
 6. 脅されてお金や物をとられた
 7. その他
-

13. 友人との関係についての項目

友人との関係について尋ねる項目である。同性の親しい友人、異性の親しい友人、同性の親友、異性の親友、及び一対一で交際している恋人がいるかどうか、またその大体の人数について尋ねるものである。

14. 親との関係についての項目

父親と母親との関係について尋ねる項目である。『あなたとお父さん（お母さん）との関係は…』と質問し、両親それぞれについて「大変良い」「やや良い」「やや悪い」「大変悪い」の4件法で回答を求めるものである。

15. アルバイトについての項目

現在アルバイトをしているか、しているとしたら1ヶ月にどの位の金額をアルバイトで稼いでいるかについて尋ねた。また、親からお小遣いをもらっているか、もらっているとしたらいくらもらっているかについて尋ねるものである。